

鈴鹿中央総合病院における後期臨床研修プログラム

1. 募集診療科

- 内科系（数名）
一般内科、循環器内科、消化器内科、血液 - 腫瘍内科
- 外科系（数名）
一般外科 & 消化器外科
- その他（数名）
状況に応じ採用します。

2. 科別後期臨床研修プログラム

1) 一般内科（3年間）

研修指導責任者 森 拓也

一般目標

generalist として総合的に内科疾患を診療する能力を身につける

研修内容

当内科は循環器、消化器、血液 - 腫瘍、腎、呼吸器、神経内科 部門がありますが、神経内科以外は各部門が独立しているのではなく、ひとつの内科としてまとめて診療を行い、ベッドも内科全体で混合して運用しています。症例も多く多彩で内科全般をオールラウンドに研修するのに適しています。従って、3年間幅広く内科一般を研修することも可能ですし、初期は内科の種々の疾患の入院を受け持ちながら、徐々に専門性を高めていくことも可能です。当院は救急搬送患者も多く、救急外来担当を通してプライマリーケアー 特に救急対応能力を修得します。

この間、シニアレジデントとして研修医とチームを組み指導にも参加し、学会発表も少なくとも1-2回は経験します。

到達目標

- 一般内科医として内科各分野の疾患を診療する能力を身につける
- 2年間の初期研修に加え、シニアレジデントとしての1年間で内科認定医資格取得に必要な症例を経験し、内科認定医受験資格を取得する
- 3年間で総合内科専門医試験の受験資格を取得する

2) 循環器内科 (3年間)

研修指導責任者 北村 哲也

一般目標

循環器専門医として循環器疾患を診察する能力を身につける。

研修内容

1年目：多くの入院患者を受け持ち、循環器疾患の診断・EBMに基づいた治療を学ぶ。また、希少な疾患に関しては、研究会や学会発表ができるようにする。

2年目：独力で循環器疾患の診断・治療ができるようになり、心臓超音波・右心カテーテル・冠動脈造影検査等の基本的な循環器検査を確実に修得する。

3年目：内科研修医の指導を含め、循環器専門医を目指し、幅広い知識と冠動脈カテーテルインターベンション等の特殊技能を身に付ける。また、臨床研究や総会レベルの発表ができるようにする。

到達目標

循環器専門医として各種循環器疾患を診察する能力を身に付ける。

循環器専門医を取得するのに必要な症例を経験する。

冠動脈インターベンション認定医を取得するのに必要な症例数を経験する。

3) 血液—腫瘍内科 (3年間)

研修指導責任者 川上 恵基

一般目標

当院の血液内科は悪性疾患としては白血病、悪性リンパ腫など、良性疾患においては特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、再生不良性貧血、紫斑病、凝固異常をはじめとした血液疾患のみならず、白血球減少症、リンパ節腫大といった血液疾患が疑われる症例を中心として診断・治療を行っております。また、血液内科以外に腫瘍内科の側面も持ち合わせ、血液疾患以外でも化学療法感受性のある悪性疾患に対しても化学療法を行っており胚細胞腫瘍、縦隔腫瘍や、特に外科とタイアップし、乳がんの(術後)化学療法なども行っております。悪性腫瘍においては9床のクリーンベッドをもち、造血幹細胞移植(自己はもとより臍帯血移植認定施設認定済み、今後骨髄バンク移植施設登録予定)を積極的に行っております。当院ではこれらの疾患の診断、治療はもとより臨床各科で扱う疾患に伴う血液凝固異常に対し、適切な助言、指導のできるオールラウンドな専門医を養成することを目的としています。当院は三重県北勢地区を中心にカバーし、平均で白血病10例/年、悪性リンパ腫20例/年をはじめとし、非腫瘍性疾患50例/年、乳がんなどの化学療法症例30例/年と十分な症例数をもち、シニアレジデントとして十分な研修を行うことができます。

研修内容

3・4年目：指導医、上級医の指導のもとで血液・腫瘍内科として症例を受け持ち、

病態・診断・治療などに習熟する。骨髄穿刺、腰椎穿刺、中心静脈 catheter 留置など基本手技を習得し、造血幹細胞移植について理解する。また、癌化学療法における抗がん剤の作用、副作用を理解し、補助療法を含む抗癌剤治療を遂行できるようにする。

内科学全般の習得も必須で一般臨床医としての基本技能、common disease の診断・治療が行うことができる。

5 年目：血液・腫瘍内科として 1 人でマネージメントでき、患者、家族への説明も円滑に行えるようになる。常勤医不在時、他科よりの依頼に適切な対応ができるようになる。

血液内科研修中の研修医の指導も行う

学会発表：内科地方会、日本血液学会、臨床血液学会などの学会発表をはじめ、研究会、地域連携において症例報告などを行う。症例報告などの論文作成を行う。

到達目標

内科学会認定医、専門医取得に必要な症例を経験し、内科認定医を取得する

血液学会専門医取得に必要な症例数を経験することが可能

臨床腫瘍学会専門医取得に必要な症例数を経験することが可能

4) 消化器内科（3 年間）

研修指導責任者 向 克巳

一般目標

内科疾患における消化器領域疾患の診断と治療技術を身につける

研修内容

当院消化器内科では、主に食道、胃などの上部消化管、大腸などの下部消化管、肝胆膵疾患を主に扱っています。診断技術として上部消化管内視鏡検査、上部消化管造影検査、腹部エコー、腹部CT、MRI（読影）、下部消化管造影、下部消化管内視鏡、ERCPなどを学んでいただきます。また技術及び知識の習得状況に応じて（緊急処置において必要と考えられる手技を中心に）内視鏡的止血処置や、内視鏡的胆管ドレナージ術、胆嚢ドレナージ術等を学んで頂く予定です。この他に内視鏡的胃婁増設術やポリペクトミーなども習得していただきます。この間学会発表も内科地方会を中心に発表していただきます。希望があれば消化器病、消化器内視鏡、肝臓等の学会に参加することも可能です。

到達目標

一般内科医として消化器内科部門の疾患を診察し治療方針をたて、緊急時に必要な処置を行える能力を身につける。

内科認定医、専門医受験に必要な症例を経験する。

5) 一般外科&消化器外科 (3年間)

研修指導責任者 金兒博司

一般目標

General Surgeon として必要な術前&術後管理に加え、高難度手術までの手術術式の習得を身につける。

研修内容

当外科では、移植手術を除く全消化器外科疾患（食道から肛門まで）、甲状腺&乳腺外科の診療&加療をおこなっていますが、年間約 1,100 例の外科入院患者ならびに約 650 例の手術症例に加え、年間約 17,000 例の救急患者にも対応しています。手術の習得は日本消化器外科学会手術難易度区分に沿って、後期研修 1 年目は低難易度手術（胆嚢総胆管結石除去術など）、2 年目は中難易度手術（幽門側胃切除など）、3 年目は高難易度手術（食道、臍頭十二指腸切除など）を執刀医として経験し、前期研修&後期研修の計 5 年間で、日本外科専門医資格取得に必要な症例数に加え、日本消化器外科専門医取得に備えた症例数も十分に経験できます。また学会発表は最低 3 回/年、論文 1 本/年を目標とし、文武両道の外科医を目指して頂きます。

到達目標

卒後 5 年目の General Surgeon として経験すべき、すべての手術術式の執刀経験と、それに必要な学問的知識取得のための学会発表&論文作成がなされている。

専門医(認定医)教育病院等学会の指定状況(鈴鹿中央総合病院)

- 〔内 科〕 日本内科学会認定医制度における教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本輸血細胞治療学会 I&A 認定施設
- 〔神 経 内 科〕 日本神経学会専門医制度教育施設
- 〔外 科〕 日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会認定医専門医制度関連施設認定
- 〔小 児 科〕 日本小児科学会小児科専門医研修施設
- 〔整 形 外 科〕 日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
- 〔脳神経外科〕 日本脳神経外科学会専門医指定訓練施設(A項)
- 〔泌 尿 器 科〕 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 〔産 婦 人 科〕 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度周産期母体・胎児専門
医暫定研修施設
- 〔眼 科〕 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 〔耳鼻咽喉科〕 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 〔放 射 線 科〕 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本核医学会専門医教育病院

〔中央検査科〕 日本病理学会研修認定施設 B
日本臨床検査医学会臨床検査専門医制度日本臨床検査医学会認定病院
日本臨床細胞学会認定病院

〔麻 酔 科〕 日本麻酔科学会認定病院

〔呼吸器外科〕 呼吸器外科専門医制度基幹認定施設

〔そ の 他〕 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設